No 93

中国人民網　www.pepl.com.cn

空から降るカラスの糞は防げない.

生息管理はできるのか，研究が待たれる.

天からの排泄物，市民を騒がす．人も車輌も防ぐ術なし．清掃員は頭痛の種！

本報の記者王薇の報道によると，この初冬以来，毎晩，長安街両側の街路樹の枝にカラスがねぐらをとっているのをよく見かける．街の人も，こいつはたまらないと覚りはじめた.

読者；　カラスは根絶すべし

先日，ある読者からカラス問題について電子メールをいただいた．彼は，東長安街南側外国貿易経済部から東の体育センター一帯に，毎晩数百羽のカラスが集団で樹上に集まり，喧騒は言うに及ばず，大量の排泄物をまき散らし，通行人の不快感は少々のことではなく，清掃員も頭を悩ましている．と伝えてきた.

彼はまた，長安街は“中国第一の街”で，外国貿易経済部と北京病院は重要な渉外，医療部門であり，その環境状況は直接首都の姿に関わっており，したがって，“カラス汚染”は必ず抑制しなければならない！　シンガポール方式を見習って，空気銃により一部のカラスを駆除することも，増長している彼らを押さえるためには認められるのではないかと言っている.

専門家；数は増加していない，射殺するには及ばない.

北京師範大学鳥類専門家の趙欣先生は，現在北京にいるカラスの主な種はハシブトガラス，ハシボソガラス，コクマルガラス，ミヤマガラスなどで，彼らは日中は郊外の田畑で採食し，夜になると温暖な市街地へ集まり，夜を過ごしているのである．北京の状況は日本，シンガポールの状況と異り，カラスはただ，冬季の何ヵ月かの間，集中して都市にねぐらを取り，３月から５月にかけてカラスは都市を去っていくので，都市構成にとって過大な圧力をかけているとは思われない，と記者に述べた.

野生動物保護専門家の郭耕先生は，実際は，北京のカラスの数が明らかに増加しているというわけではない，古くから北京の整備されていない路上には，多くのカラスの糞が落ちており，それらは土壌に吸収分解され栄養源となっていた．発展した現在の都市では，道路は舗装され，その上にカラスの糞が落下すると，いつまでも目障りになるが，カラスはネズミの死骸や腐肉，害虫などを食べる都市の“清掃員”なので，カラスが増えたことは都市環境の質が高くなったことを表しており，そのことを人々はよく考えるべきで，決して駆除するような方法を採用してはならない，と言った.

カラスの個体数制御の有効な方法は？

多くの国際都市で，広場のハト，カラスなどの被害は，美しいブロンズや大理石の彫像に付着したハトの糞やカラスの糞は都市の彫像に大きな損害をもたらしている．ロンドン市庁は鳥の餌に避妊薬を混入する予算を出費しなければならなくなった．同様にスペインのバルセロナ市の生物学者も“鳥を以て鳥を制す”という生物的方法の考えで，ハトの繁殖速度を抑制した．日本，シンガポールなどの国でも，前後して，駆除と食物源を絶つという方法等でカラスの数を減少させようとしている．ほとんどの大都市がこの問題に手をやいている．　（訳　福井和二）